

土佐清水市地域公共交通協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和4年度)

土佐清水市基礎データ

合併状況: 昭和29年8月に4町が合併
人口: 12,388人(令和2年国勢調査)
面積: 266.01平方キロメートル

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

土佐清水市における主な公共交通概要

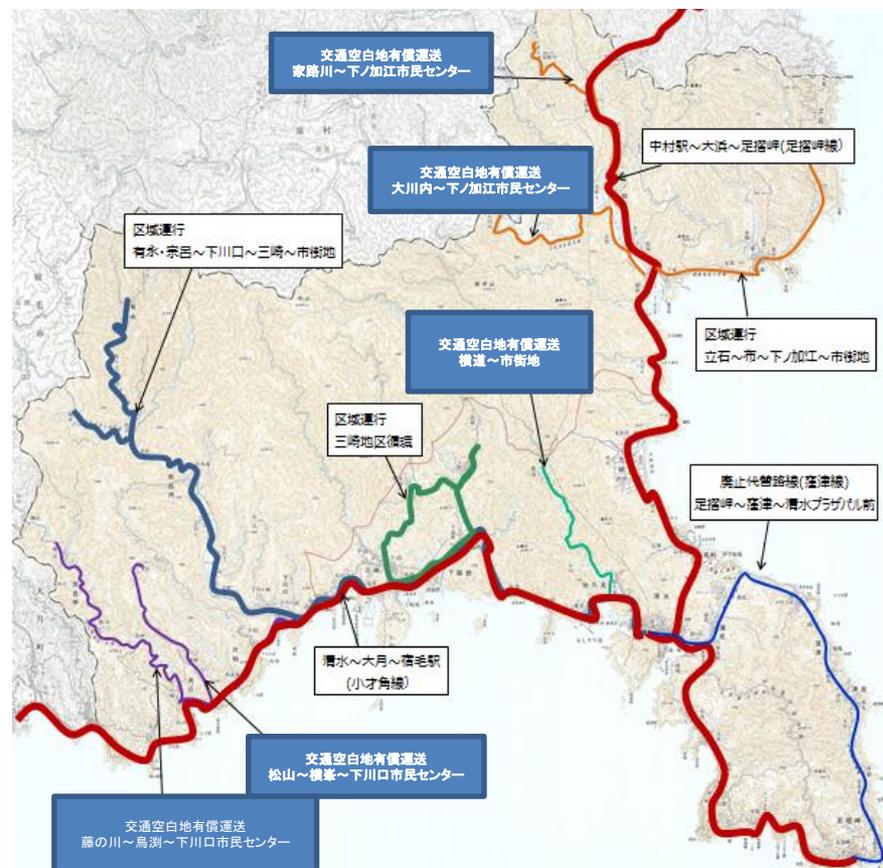
(幹線)

- ・足摺岬線
四万十市の中村駅を起点とし、清水プラザパル前を経由し大浜まわりで足摺岬まで走る民間事業路線
- ・小才角線
宿毛市の宿毛駅を起点とし、大月町小才角を経由し清水プラザ前まで走る民間事業路線

(フィーダー)

- ・足摺岬から窪津を経由し、清水プラザパル前で幹線につなぐ廃止代替路線バス
- ・下ノ加江下浦バス停で幹線につなぐデマンド区域運行
- ・三崎地区を循環し、幹線につなぐデマンド区域運行
- ・下川口漁港前バス停で幹線につなぐデマンド区域運行
- ・家路川から下浦バス停で幹線につなぐ有償運送
- ・大川内から下浦バス停で幹線につなぐ有償運送
- ・横道から清水プラザパル前で幹線につなぐ有償運送
- ・藤ノ川から下川口漁協前バス停で幹線につなぐ有償運送
- ・松山から下川口漁協前バス停で幹線につなぐ有償運送

土佐清水市の公共交通ネットワーク図



土佐清水市地域公共交通協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和4年度)

協議会の構成員

高知西南交通(株) (有)足摺交通 龍串見残観光ハイヤー(有)
NPO法人Makana 中村警察署 区長会 四国運輸局 土佐清水
市観光協会 土佐清水市商工会議所 高知県 土佐清水市

前年度の事業評価における課題

学生の利用減少や新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数が減少傾向にある系統がみられた。沿線の地域サロンにて『おでかけ』の乗り方教室を開催するなど周知を徹底することなどが課題となっている。

定量的な目標・効果

(目標)

・1月当たり運行回数を下ノ加江地区49回以上、下川口地区96回以上、三崎地区45回以上とする。

(効果)

・当該路線を維持することにより、交通空白地の高齢者等の生活に必要な移動手段が確保される。また、幹線を走る路線バスと連携することにより、広域的な移動利便性が向上する。
・通学生の通学手段を確保することで、保護者等の負担を減らし自動車利用の抑制を図る。

フィーダー系統図



「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

・令和4年6月27日に協議会総会を開催しフィーダー系統確保維持計画について協議を行い、これまでの実績を踏まえた今後の運行回数等の目標設定について検討を実施した。

また、土佐清水市地域公共交通網形成計画の計画実施に向けた取り組みについても協議を行い、三崎・下川口地区では地域住民からの要望として特定の時間のバス運行の希望があり、デマンドバスのバス停を新たに設置することで対応した(幹線を通っている路線バスのさらなる利用向上も含め対応を実施)。下ノ加江地区では一部の地区でデマンドバスの利用がしたいという希望があり、それらの地区への運行エリア拡大の実施や、路線バスの待ち時間が長いこと、移動の利便性向上を考え運行便の終着地点の延長を実施した。

自己評価

事業実施の適切性

- ・下ノ加江地区
事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。
- ・下川口地区
事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。
- ・三崎地区
事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。

「定量的な目標・効果」の達成状況

- ・下ノ加江地区において目標を達成した【運行回数目標49回/月に対し、実績値は54回/月】
- ・下川口地区において目標を達成した【運行回数目標96回/月に対し、実績値は101回/月】
- ・三崎地区において目標を達成した【運行回数目標45回/月に対し、実績値は50回/月】

今後の事業に向けた改善点

運行収入について、エリア内での利用が増えたことなどから減少しているところがあり、引き続き公共交通についての広報書類の配布や『おでかけ号』の乗り方教室の実施など、利用者を増加させるための取組を行っていく。
デマンドバスの運行場所などを改変することで、利用が増えていることがあるため、利用者からの声として、要望等についての聞き取りやアンケート調査を行うなどして、今後利用を促進していくために改善すべき点について調査し、現状の見直しを行う。

その他PRポイント

土佐清水市地域公共交通網形成計画を実施中であり、今後も利用者のニーズに合わせた取り組みを実施していく。